



まつお新聞

発行所
飯田市松尾公民館
編集人
松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷(株)



「一ノ宮から望む朝日」
吉川康史さん(上溝区)
上溝区「島田郷一ノ宮御社宮司社」
から寺所区、新井区方面を撮影。

【写真公募】 松尾公民館広報委員会で発行している「まつお新聞」が、昭和29年12月15日付「村の新聞」として復刊第1号を発行してから今回で還暦を迎えました。これを記念して、まつお新聞第233号の1面を飾る新春号にふさわしい一枚を公募しました。応募作品は、1月末日まで公民館ギャラリーに展示する予定です。

「還暦を迎えたまつお新聞」

南信州新聞に紹介される

まつお新聞の第1号が発行されてから60年。同じく60周年を迎えた南信州新聞が、新聞紙面で「還暦を迎えたまつお新聞」を紹介した。

松尾公民館発行の本紙「まつお新聞」は平成27年60年目の年であった。一方、南信州新聞も同じく平成27年10月に発行60周年を迎え、10月1日の紙面で「まつお新聞と南信州新聞は、地域と共に60年の歴史を刻んできた」と、同じ時代を歩んできた還暦仲間のまつお新聞を紹介した。

南信州新聞には「飯田市と合併前の松尾村の公民館が昭和29年に『村の新聞』の第1号が発行された。その後『まつお新聞』の名称になり、現在まで60年間発行され続けている。第1号では、飯田市との合併にあたり松尾村としてどう考えるか多方面から探っている。当時の編集部の意気込みが伝わってくる」とある。

取材を受けた松原倫子広報委員長は「60年の間、新聞作りの熱意は代々の広報委員によって受け継がれてきた。先人たちが築き上げたまつお新聞を紹介した。」

まつお新聞の第1号が発行されてから60年。同じく60周年を迎えた南信州新聞が、新聞紙面で「還暦を迎えたまつお新聞」を紹介した。

平成 27 年 どんな年でした

- 文化祭「立川談四楼 落語会」落語ファンで大賑わい(1月)
- 「第2回松尾郷土芸能まつり」晴天の中、10団体が郷土芸能を披露(4月)
- 「人形劇フェスタ 松尾地区公演」各会場で特色ある公演(8月)
- 「松尾地区市民運動会 5年ぶりの雨天中止」松尾小6年生「モデルロケットを飛ばそう!!」開催(10月)
- 鳩ヶ嶺八幡宮紅葉ライトアップ(11月)



取材を受ける松原委員長

てきた思いを引き継ぎながら、今の時代に合うような新聞作りを目指していきたい」と語った。広報委員会では、2月6日7日の松尾地区文化祭において、60年分のまつお新聞の展示を行う予定。

「城公園」いよいよ開園

本年度4月より整備工事が行われていた城公園がいよいよ10月31日に開園の日を迎えた。

この公園は旧松尾保育園園舎が移転したことに伴い、その跡地に計画整備されたもの。その日、おばあちゃんを迎えに行くまでのわずかなひとときを2歳の長女と1歳の長男を連れて訪れていたという水城区の宮田幸花さんは「歩いて来られる身近な公園、柵に囲まれていて安全だし、小学校のすぐ近くにあることが子供たちを遊ばせるうえで安心感につながる」と笑顔で答えた。



子供たちの笑い声が響く

また、公園整備工事に合わせて行われていた土俵整備作業は、11月23日に木曾相撲連盟の指導で、まちづくり委員会役員と松尾相撲クラブが土俵へ俵を埋め込む作業、12月13日には整備確認作業を行い完了した。完成式は12月19日に行われた。



完成後、塩で清められた土俵

松風

9月の連休中の出来事。夕方6時のチャイムが鳴っても小学3年生の息子が家に帰って来ない。外に出て待っていると、間もなく小さな息子の姿が見えて来た。「走って来い」の声に反応することなく、とぼとぼと歩いて近づいて来た。父親を避けるように通り過ぎようとする息子の顔を見ると、目の横が腫れている。「どうしたんだ?何をしたんだ」の問いに「石があたって」と言葉が濁すような返事が帰ってきた。はつきり言わないので心配になって、一緒に遊んでいた子供の家へ問い合わせしてみたところ、明公園に蜂の巣があり、それに石を投げたことが分かった。改めて息子に聞いたところ、スズメバチの巣にみみなど石を投げていたら刺されたと言った。毎年夏から秋にかけて、スズメバチに刺され病院へ搬送されるといったニュースをよく聞くが、ひとつ間違えれば命を落とす。おもしろ半分で行ったことが、時に大惨事を招くことがある。親として、息子に危機感を持たせることはもちろんであるが、普段から何かあった時の対処法を身につけておくことの大切さを痛感した。市役所に通報し、後日巣は取り払われた。

松尾の人口
男子 6,181人
女子 6,895人
計 13,076人
世帯数 4,944世帯
11月末現在

松尾地区市民運動会

80年記念大会が雨のため中止

松尾地区市民運動会が今年で80回目を迎えた。今大会は記念大会となるはずであったが、あいにくの雨で中止となった。半年に渡り協議を重ねられ、前日準備まで万全に行われた運動会のドキュメントを紹介する。

各地区では運営や準備に携わった役員、選手などを交えて慰労会

兼残念会が行われた。配られたあんパンを使って、「室内パン食い競走」を行った小学生が応援合戦をして区民の絆を深めたりした区もあった。中止にも拘わらず大勢の参加に、「雨でも楽しい」の声が上がった。この団結力が、運動会80回目の証であろう。



運動会の朝 雨に濡れるグラウンド



運動会への思い

松尾公民館長 勝野 薫
 今年の松尾地区市民運動会は80周年の記念大会という事で、盛り上がりを期待していただけに雨天中止は大変残念でした。
 しかし、プラス思考で考えれば、1年間の充電期間と捉えて来年度は更にレベルアップした運動会にしたいと思えます。来年頑張りましょう。



倉庫に眠る景品の山「来年まで待ってね」



今年の豚汁の味はどうぞら



慰労会の歌は応援合戦だ



練習ではこんなに入ったよ



テントを張るのも一苦労



パン食い競走は大人がやっても楽しい



夕暮れまで練習したのに...



慰労会盛り上がったよ



柄木田先生の講演を熱心に聴く

分館役員 研修会

11月5日松尾公民館で、役員約50人が参加し、分館役員研修会が行われた。この研修会は、公民館活動の本質について理解を深めるものであった。元鼎公民館長柄木田孝行先生を招いた講演会「地域の活力源のための公民館」では公民館役員の心構え、公民館で学ぶことで生涯学習の力を身につけること、出会いや学び合いで地育力を育てていくことの大切さなど学んだ。

深秋の探勝会

11月7日「真田氏ゆかりの地」上田・松代の旅が行われ19人が参加した。
 朝6時に出発し、東御市の海野宿、上田市の上田城、長野市に場所を移し昼食を挟んで松代の松代城跡、真田邸、真田宝物館を見学した。
 晴天に恵まれ、北に行くほど紅葉が深まり、美しい風景を満喫しながら、



真田邸の見事な庭園

今年オンエアされるNHK大河ドラマ「真田丸」を先取りした気分分で楽しい旅行となった。

10月31日に松尾探検隊が「妙前・大石古墳群を巡る」と題して行われた。
 新井コミュニティセンターに集合し、参加者16人は新井地区から上溝地区にある妙前・大石古墳群を見学した。松尾史学会会長の秦野善彦さんから、古墳について「松尾では、畑や庭などとして保存され原形をとどめている」「妙前9号古墳は現在の倍の大きさ、道路を拡張し狭く小



古墳の現状は.....

松尾探検隊

- #### 公民館の主な行事予定 (1月~3月)
- 【1月】
 - 10日(日) 松尾地区成人式
 - 17日(日) 3地区合同女性バレーボール大会
 - 31日(日) 日中文化交流会
 - 【2月】
 - 6日(土)・7日(日) 松尾地区文化祭



迫力あるヒットの連続

交流大会には、地元松尾地区から上溝区3チーム、毛賀区2チームが出場、他地区からも多数の参加があり、白熱した試合を繰りひろげていた。
 夕方から松尾公民館で祝賀会が盛大に行われた。

松尾キンボール 10周年記念

11月1日松尾キンボールクラブの10周年記念行事が行われた。鼎体育館を会場として、午前中は大阪からの講師によるキンボールの技術の講習会、午後からは交流大会があり、小学生20人を含む約100人が参加した。

「さくなくなった」などの説明があった。

敬老会特集 松尾のいい人

まつお新聞発行60年、運動会に至っては、雨で中止となりましたが80周年を迎えました。地域の資源(もの・人)を発掘することが、将来的に松尾の文化・経済の活性化につながり、愛着をもって住み続けられる地区作りになると考え、広報委員会では

「まつおのいいところ探し」に取り組んでいます。今回、敬老会特集として各分館が選んだ、80歳を超える今もなお現役で活躍されている方、過去に功績を残された方など、「まつおのいい人」を紹介します。



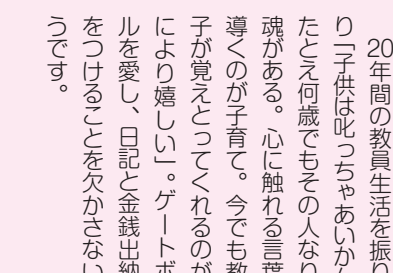
親しむことが守ること

久井区
北城 節雄さん(83歳)
長野県委嘱の自然観察インストラクター。「親しむことが守ること」を基本とし、講師として身近な題材をテーマに、分かりやすい解説を行っています。区内の同好会で行った動植物の自然観察会など、飯田下伊那各地で自然保護活動に活躍しています。



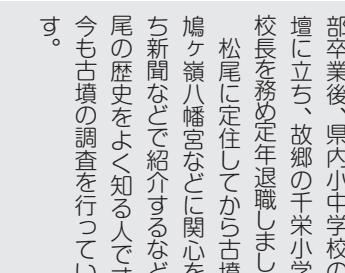
篆刻に夢中

上溝区
山内 章圭さん(83歳)
白髪でとてもダンディな山内さん。趣味は絵画鑑賞、水墨画。現在は篆刻に夢中。「2020年の東京オリンピックの現地観戦が目標」と話します。松尾郵便局長、社会福祉協議会会長を歴任。区長も経験し、とても温厚で社会的な方。現在は、区内高齢者クラブ会長を務めています。



子供は叱っちゃあいかん

新井区
丸山 節子さん(89歳)
20年間の教員生活を振り返り「子供は叱っちゃあいかん。たとえ何歳でもその人なりの魂がある。心に触れる言葉で導くのが子育て。今でも教え子が覚えてくってくれるのがなにより嬉しい」。ゲートボールを愛し、日記と金銭出納帳をつけることを欠かさないそうです。



今も勉強

水城区
清水 秀人さん(82歳)
千代に生まれ、信大教育学部卒業後、県内小中学校の教壇に立ち、故郷の千栄小学校校長を務め定年退職しました。松尾に定住してから古墳や鳩ヶ嶺八幡宮などに関心を持ち新聞などで紹介するなど松尾の歴史をよく知る人です。今も古墳の調査を行っています。



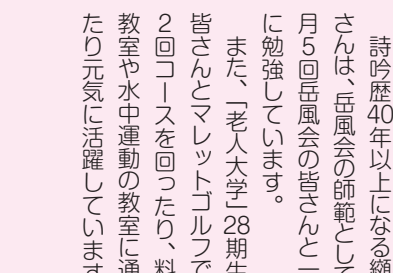
受賞作品と

明区
松下か津恵さん(92歳)
50歳を過ぎてから始めた絵画で、県展の信州美術会賞など数々の賞を受賞している松下さんは、大正12年生まれの92歳です。曾孫の子守りの合間に、今でも年に2枚くらい描き、ほかに明短歌会に所属し人生を謳歌しています。



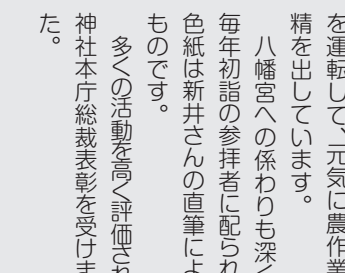
子供たちとあいさつをかわす熊谷さん

寺所区
熊谷 美夫さん(81歳)
松尾の小学生ならみんなが知っているあいさつのおじいちゃん。「人は一人で生きているようにも、本当はたくさんの人に支えられて生きていることができる。自分も誰かの支えになりたい」と思い活動を続けている。子供たちからパワーをもらっている」と話します。



岳風会の大会にて

城区
額 千芳さん(82歳)
詩吟歴40年以上になる額さんは、岳風会の師範として、月5回岳風会の皆さんと一緒に勉強しています。また、「老人大学」28期生の皆さんとマレットゴルフで月2回コースを回ったり、料理教室や水中運動の教室に通ったり元気に活躍しています。



今年の色紙

清水区
新井 順三さん(90歳)
90歳を過ぎた今も、自ら車を運転して、元気に農作業に精を出しています。八幡宮への係わりも深く、毎年初詣の参拝者に配られる色紙は新井さんの直筆によるものです。多くの活動を高く評価され、神社本庁総裁表彰を受けました。



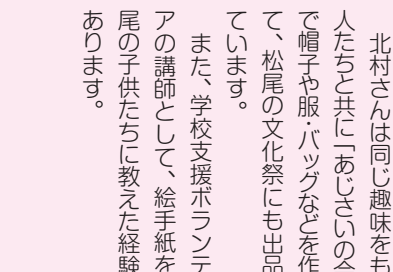
作った人形は100体を超えました

代田区
松島みほさん(89歳)
趣味で日本人形作りをしています。若い頃、久月人形学院教授を取得し、本格的に始めたのは80歳過ぎてから。自分の昔の服や子供が小さい頃着ていた服の生地を使い、牛乳パックや廃物を利用して制作しています。「ポケ防止も兼ねて、指先を使う人形作りは楽しい」と話す松島さんは、今は布ぞうり作りにも挑戦中です。



今も現役のストロングマンです

八幡町区
杉山 勝彦さん(82歳)
今年度の松尾地区還暦の会で、記念写真の撮影をした現役カメラマンです。マレットゴルフでは、自宅にトロフィーが180個はあるという凄腕プレーヤーで、大会は月に8回は出場するといっています。



心をこめて

常盤台区
北村とよ子さん(81歳)
北村さんは同じ趣味をもつ人たちと共に「あじさいの会」で帽子や服バッグなどを作っており、松尾の文化祭にも出品しています。また、学校支援ボランティアの講師として、絵手紙を松尾の子供たちに教えた経験もあります。



こんな小さな鶴まで

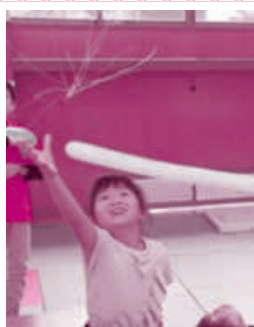
毛賀区
平澤 イトさん(83歳)
手・指の訓練で始めた折り紙も気付けば5千羽の鶴に。今では100円玉より小さな鶴も！



優勝 新井 準優勝 上溝
優勝 城 準優勝 久井
Bブロック



＊八幡宮紅葉ライトアップ
11月21日紅葉ライトアップイベントが行われ、五平餅販売やコンサートなどが行われた。
＊分館対抗はるばるバレー大会が11月22日に松尾小学校体育館で開催された。結果は以下のとおり。
Aブロック
Bブロック



＊松尾サイエンススクール11月14日ミニ体育館で行われ、約30人が静電気の実験を体験した。

ふれあいひろば

ネットに潜む危険 地域安全大会



こんな葉書がきたけれど

まちづくり委員会（生活安全部・交通安全部）主催の地域安全大会が、11月28日松尾公民館ホールで行われ、約200人が参加した。松尾小学校合唱部の歌声で開会し、続いてセーフティネット総合研究所専務理事南澤信之氏の講演「ネットに潜む危険」とらふいっくsistersによる「ミニデジタル交通安全教室」、飯田警察署喬木村駐在所の井川駐在夫妻と原松尾駐在所長雨宮駐在による特殊詐欺防止

寸劇が行われた。この大会は、今まで少年非行防止に繋げていく目的で行われてきたが、第7回目を迎えた今大会は、地域の安全（防災・防火・交通安全など）に関する全てを考える機会として開催された。ネット時代の怖さ、交通ルールの再確認、詐欺は人事ではないことを学ぶ機会となった。参加者には啓発用の防犯イラストパーパーと非常用保存食が配布された。



下級生も感激 わ～上がった！すご～い！

この教室は松尾サイエンスと育成会が、子供たちの理科離れが進む中、科学の面白さを知ってもらおうと松尾小学校に働きかけ、学校の協力の下、授業として行つて今年で6年目となる。サイエンススタッフで、おもしろ科学工房（教育委員会事務局）の三浦宏子さん（八幡町）が作り方を説明、工房スタッフ6人を含む24人が指導に当たった。このロケットは、アメリカ製A8-3型ロケットエンジン、イグナイターと呼ばれる点火剤以外は、カレンダーなど身の回りのものを使っている。6年児童らは「結構高く飛んで楽しかった。もう一

地域に見守られて！ 松尾小6年生がモデルロケット打ち上げ

11月11日松尾まちづくり委員会公民館育成部青少年健全育成会（松澤秀明会長）の主催で、松尾小学校6年生（139人）を対象に、出張科学実験教室が小学校で行われた。体育館で1人1基のモデルロケットを作った後、グラウンドで発射ス

イッチを自分で押し、打ち上げた。



笑いと音楽の集い サンロード八幡・笑いにいらっしやい

サンロード八幡商店街主催の第3回「笑いと音楽の集い」が10月24日八幡町公会堂で行われ、約100人がこの催しを楽しんだ。今年も飯田OIDE長姫高校の生徒が、準備から参加し、ポスターや横断幕作り、当日も飾りつけなどを手伝った。



どれどれ、できているかな？

度作りた」と話していた。この日、国産旅客機MRJが初飛行。これを機に松尾から未来の技術者が生まれるのも夢ではないだろう。



銅板を打つ参加者

毛賀区文化祭「表札作りの体験」毎年この時期は各分館で文化祭や芸能祭が開催される。毛賀区でも毛賀区文化祭が11月14・15日に同区民会館で行われ、文化展やバザー、豚汁の無料サービス等の催し物に加え、今年度は銅板工芸や手芸の体験教室が開かれた。15日に開かれた銅板工芸の体験教室では、毛賀区の宮下忠雄さんを講師に、銅板にかなづちと釘を使い文字や模様を浮かき上げさせ、表札やコースターを作った。参加者はコツコツとかなづちで釘を打ちながら熱心に作業を進めた。出来上がった作品は、宮下さん



何が出るのかな？

色とりどりの折り紙で折られた恐竜やコマなどを、松尾地区文化祭に来たことがある人なら、一度は目にしたことがあるだろう。パラソルの会（飯島和子さん代表）の出品作品だ。同会は現在6人のメンバーが月1回ほど公民館に集まり制作をしている。約23年前、乳幼児学級の手伝いをしていたメンバーが折り紙教室に参加し、傘の折り方を教えてもらったことがきっかけであった。



グループ紹介

パラソルの会

以来、折り紙の虜となり、この会を発足させた。会の名前はきっかけとなった傘パラソルからきている。発足当初は難しい折り方にもたくさん挑戦してきたが、今はそれぞれが好きなものを作り、見せ合い、話をしながら折り紙を折るのが楽しみとなっている。

年に1度、松尾地区文化祭へ作品を出品するためテーマを決めて完成させるのが、主な活動となっている。飯島さんは、「会を立ち上げて長くなるが、見てくれる人たちが素敵だと感動してくれる作品を作っていきたい」と語る。

松尾図書館

（公民館2階）
開館日 水曜 午後1～5時
土曜 午前10～午後5時
日曜 午後1～5時
本のリクエストも受付けています。

松尾文化祭が2月6・7日に開催されます。今年も楽しい企画を予定しています。多くのご来場をお待ちしています。

お詫び
まつお新聞232号3面に掲載されている「隆松塚」は正式には「降松塚」です。お詫びして訂正いたします。